神戸学院大学　ボランティア活動支援室

　神戸学院大学では、ボランティア活動を通して学生の自主性、創造性および社会性をはぐくみ、地域社会へ貢献できるように支援をしています。
　ボランティア活動支援室は、活動に関心はあるが、参加の仕方がわからないといった学生や団体に対して専門的なサポートをする、学生とボランティアを繋ぐ架け橋となる場所です。活動情報の発信や学生が参加しやすいプログラムを提供するなどして地域や社会への自発的な参加を促進することで、学生の新たな学びにつなげます。

有瀬キャンパス

ポートアイランドキャンパス

開室日時

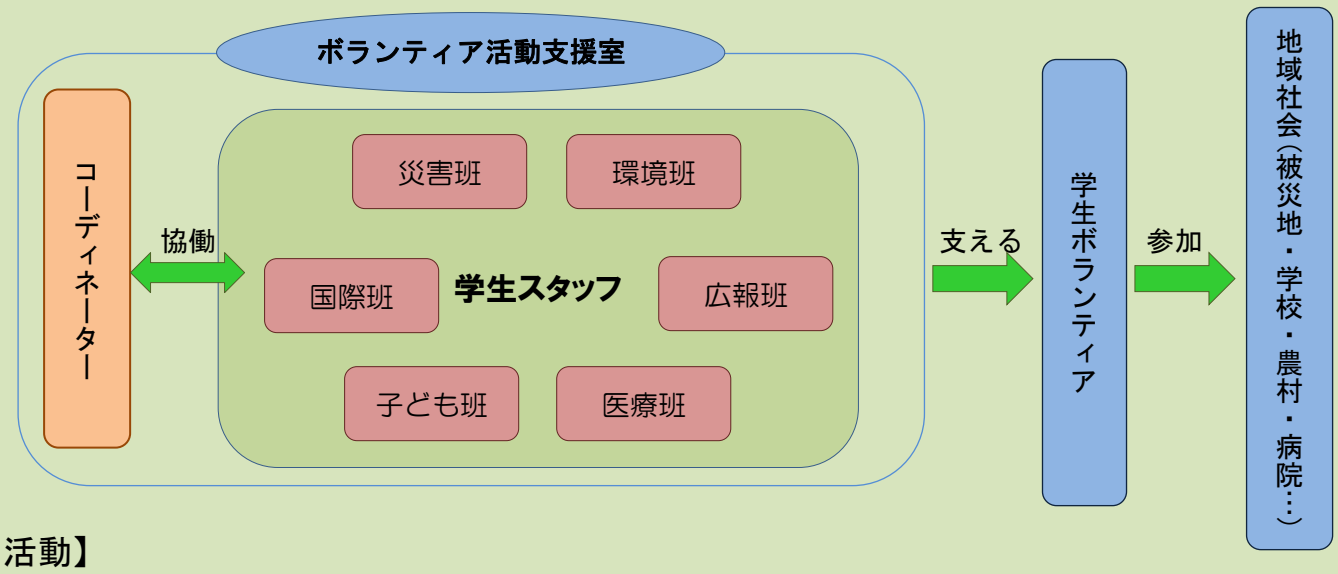
有瀬キャンパス（3 号館 1 階）
ポートアイランドキャンパス(KPC1・ B 号館 3 階)
月～金曜日　9：00～17：00（祝日は閉室）

支援室 HP

ボランティア活動支援室学生スタッフ

～学生による学生のためのサポート～

　学生とボランティア活動をつなぐ学生コーディネーターの役割を果たしています。同じ学生の立場でサポートを行うことにより、活動をより身近に感じることができ、より理解が深まります。「参加」「相談」「企画」を三本柱に、取り組みテーマごとに「災害班」「子ども班」「環境班」「医療班」「広報班」「国際班」の６つの班に分かれ、学生ボランティアスタッフの立場で事業を企画・運営しています。



企画会議中の学生スタッフ

【主な活動】
　〇新入生ボランティアガイダンス　　〇ボランティア活動のサポート(相談・情報提供など)
　〇ボランティア活動情報の提供（掲示物管理・HP・SNS 配信など）
　〇「サマーボランティア」「スプリングボランティア」および被災地応援ボランティアなどのプログラム企画・運営など

サマー＆スプリングボランティア

　長期休暇期間を利用し、主にボランティア初心者の学生が参加しやすいプログラムの企画・実施をしています。大学が地域の団体などと相談し、20 程度のメニューを取り揃え、学生はその中から自主的に参加したい活動に申し込む形式となっています。毎回、学部や学年を超えた 100 名前後の学生が、医療、福祉、子どもとの交流、環境、まちづくり、被災地支援など多彩な現場で活動を経験し、成長しています。プログラムの前後には、研修会も実施しており、ボランティアの基礎知識や注意点を学び、活動後には感想や気づきをお互いに共有することで、自身のさらなるステップアップにつなげます。

【活動メニュー例】
・子ども・・・児童館での学習支援・大学キャンパスでレクリエーション
・福祉　・・・病院・高齢者施設での交流活動、障がい者お店の販売手伝い
・環境　・・・里山での棚田整備、農園での栽培、ごみと資源の分別啓発活動
・防災　・・・キャンパスで防災学習プログラム

神戸学院大学

ポートアイランドキャンパス
〒650-8586
神戸市中央区港島 1-1-3
TEL：078-974-1551(代)

有瀬キャンパス
〒651-2180
神戸市西区伊川谷町有瀬 518
TEL：078-974-1551(代)

被災地支援活動

―― 阪神・淡路大震災の思いをつなぐ　　神戸の大学にできること ――

阪神・淡路大震災と東日本大震災、熊本地震、能登地震

1995 年、阪神・淡路大震災によって私たちのまちは大きな被害を受け、震源地に一番近い総合大学である本学においてもその傷跡が大きく残りました。国内外からの支援を受け、復興の道を歩む過程で命の大切さや絆、思いやりや支え合いなど、多くの経験と教訓を学びました。

教育機関である大学は、何をなすべきか。教育や研究を通して、震災で失った地域コミュニティの復興や次なる災害への備え・防災教育を展開し、災害に強い街、災害に強い人づくりをしていくことではないかと考え、伝える・備える・生かす取り組みを行ってきました。そして 2005 年 4 月にボランティア活動支援室、2014 年 4 月に現代社会学部社会防災学科が開設されました。東日本大震災の被災地をはじめ、兵庫県丹波市、広島市（共に 2014 年）、茨城県常総市（2015 年）、そして 2016 年から熊本地震の被災地へ、2018 年は、西日本豪雨、2019 年には台風 19 号の水害被災地、そして 2024 年は能登半島地震被災地へと支援活動の経験を積み重ねています。これまでの被災地への送り出しは 152 回で、活動人数は学生 1553 人、教職員 257 人（2024 年 12 月現在）です。

東北での取り組み

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、地震発生の翌日に学長を本部長とする「災害支援対策本部」を立ち上げ、その一週間後には先遣隊を派遣しました。2011 年の夏休みからは、現地の社会福祉協議会、自治会等との連携のもとで、仮設住宅の生活向上につながる活動を実践、2017 年までに 92 回、975 人の学生を送りだし、現在も形を変えて継続しています。

- 仮設住宅周辺マップ制作（石巻専修大学との協働）
- 集会所を拠点に人が集う空間づくり/住民の方とベンチ・濡れ縁制作
- 仮設住宅の年末大掃除手伝い
- スタディーツアー　2018 年から東北の今を学ぶスタディーツアーを実施。コロナ禍で中断後、2023 年 9 月に再開、宮城県名取、石巻市の他、福島県双葉町の原子力災害伝承館を視察しました。学生は復興への長い道のりを実感しています。

阿蘇・熊本での取り組み

熊本地震被災地

（教育後援会・同窓会補助プログラム）

（熊本支援、瓦礫の片付け）

2016 年 4 月の地震で甚大な被害を受けた熊本県へ緊急支援ボランティア（計 6 回、学生 74 人）を行いました。

熊本県益城町、西原村、南阿蘇村での被災家屋、神社の片付け、避難者への足湯活動の他、後半は仮設住宅や農業支援活動など、現地の大学や NPO と連携して活動に取り組みました。 この活動では、本学の教育後援会や同窓会等から支援をいただき、春休みに実施した第 6 陣では、関西と九州支部の同窓生と共に活動しました。

2017 年度以降も活動を継続。内容は緊急支援から仮設住宅生活支援等へ移行。熊本の大学（熊本学園大学、九州ルーテル学院大学等）に協力をいただきながら進めてきました。コロナ禍で 2 年間中断しましたが、2023 年 2 月には、益城町の復興住宅交流（熊本学園大学）、南阿蘇村視察（東海大学）、阿蘇市のイチゴ農園お手伝い（熊本 YMCA から紹介）など充実したプログラムが実施できました。

被災地緊急支援

西日本豪雨被災地

2018 年 7 月の台風 7 号により、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、水害、土砂災害等が発生し、死者、行方不明者が多数となる甚大な被害をもたらしました。

7 月 21 日の第 1 陣（広島市安佐北区）を皮切りに、第 2 陣・3 陣・4 陣（いずれも岡山県倉敷市真備町）と緊急支援ボランティアを実施しました。

また、神戸でできる支援として、募金活動も実施しました。

令和元年台風第 19 号被災地

2019 年 10 月 10 日から 13 日にかけて、台風 19 号により発達した雨雲や台風周辺の湿った空気の影響により、静岡県や関東甲信地方、東北地方を中止に広い範囲で記録的な大雨となり、水害、土砂災害等が発生。死者、行方不明者も多数となる甚大な被害をもたらしました。

11 月 1～3 日に長野市で、11 月 16～17 日と 12 月 7～8 日は宮城県伊具郡丸森町で被災家屋の泥かきや掃除などを行いました。

令和 6 年能登半島地震被災地

2024 年元旦に発生した能登半島地震は最大震度 7 を観測し、甚大な被害をもたらしました。また9月の豪雨により、追い打ちをかけるように水害をもたらしました。本学は、2024 年 2 月に教職員による調査隊を派遣したあと、2024 年 3 月から 2025 年 3 月まで計7回学生を被災地に送り出しました。　＊詳細は別パネルで。

神戸での取り組み

被災地応援物産展

能登半島、東北、熊本の物産を取り寄せ販売し、購入する方に現地の様子を伝えています。これまで 40 回開催し、毎回完売と好評で、今後も地域のイベントなどで継続していきます。

（被災地応援物産展）

キャンパスのある地域での防災活動

（学生・西区連携まちづくり活動助成事業）

2021 年度から、新型コロナウィルス感染拡大の中でも地域と連携してできる防災活動として、防災情報誌を発行し、3500 世帯に配布しています。

2024 年度には、キャンパス地域の小学生・中学生を対象に、防災学習会（神戸市西区と共催）など地域連携を深めています。

防災情報誌『いっせーのせ』

子ども達と大学生が学び合う
防災学習会

神戸学院大学

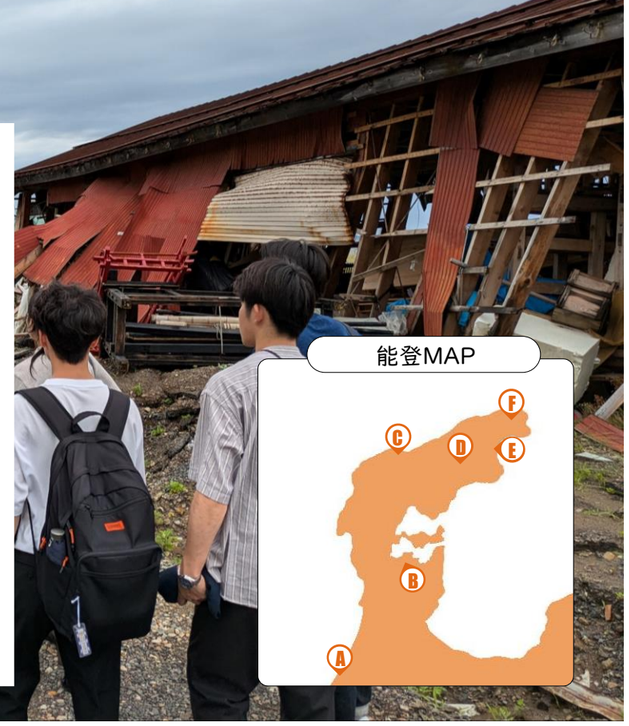
学生ボランティアレポート

令和6年能登半島地震 神戸学院大学生ボランティア

2024年1月1日に発生した能登半島地震は、石川県輪島市等で最大震度7を観測し、甚大な被害をもたらしました。神戸学院大学は、2月に教職員による現地視察を実施し、活動計画を立案、計6回にわたり学生を能登半島に送り出しています。

直近では、9月21日からの奥能登豪雨は地震による被災地を襲い「複合災害」をもたらしました。復旧、復興の最中であった被災者の「心を折る」出来事としてニュースで報じられましたが、被災地から要請を受け、10月に2回の緊急支援を実施しました。

今号は、活動写真を通じて、現地の様子や学生ボランティアの頑張る姿をお伝えします。



第１・２クール　活動場所　A・B

日程：第１クール３/11,12 ／ 第２クール３/13,14
参加学生数：計16名（引率 計4名）
＜被災家屋の片づけ＞七尾市災害ボランティアセンターの仲介で被災家屋の片づけなどを行いました。

能登半島地震 1月1日 → ２月 → ３月 → ５月 → ６月

教職員先遣隊

被災地応援物産展（ノエビアスタジアム）

第３クール　活動場所　D・E

日程：６/28～30　　参加学生数：８名（引率2名）
＜珠洲市の農業生産法人で活動＞
神戸で行った「被災地応援物産展」で販売したお店の視察（穴水町のお菓子工房、能登町の500年続く米飴の商店）、珠洲市の被災された農業生産法人で小豆の選別作業。

第４クール　活動場所　C・D・F

日程：９/９～12
参加学生数：１０名（引率2名）
＜被災者の健康体操＆茶話会を実施＞
被災家屋の大量の瓦の廃棄作業、小豆の選別作業（6月から継続）、イベントNPOの音響、照明設備の清掃、被災者を対象とした健康体操＆茶話会（本学主催）と非常にバラエティ豊かな活動ができました。

９月 → 能登半島豪雨 9月21～23日 → １０月 → １１月

被災地応援物産展（大学祭）

第5・6クール　活動場所　D・F

第5クールは水害でダメージを受けた田んぼの稲刈り作業。泥が入ったり、水害で稲穂が倒れてしまったりで、稲刈りを断念する農家もあるとのことでした。

第6クールは、バラエティに富んだ活動となりました。一人暮らしの被災家屋の片づけ、震災後放置されたビニールハウスの草刈り、子どもの森の整備活動でした。

子どもの森は「ケロンの小さな森」という名称で、小学校の校長先生が退職後、山を買い取り、手作りで子どもたちの自然体験の拠点を2014年に開設されたものです。地震でガケ崩れや地割れ、倒木等の被害を受け、しばらく休止せざるを得ない状況でしたが、子ども達やボランティアの手で復旧活動を続けておられます。

日程：第５クール 10/11～13
第６クール 10/18～20
参加学生数：計17名（引率 計3名）
＜9月の豪雨で、学生ボランティアを緊急募集＞

夏休みの活動が終了し、成果を吟味しながら2024年度後期の活動をじっくり検討したいと考えていました。そこに、9月21日からの豪雨が能登半島を襲い、復旧、復興をめざす被災者にさらなる被害をもたらしました。

以上、作成時点（1月）までの能登半島支援の報告とさせていただきます。2024年11月には大学祭があり、そこでも被災地応援物産展を開催しました。そして、2025年3月には「第7クール」を実施する予定です。

能登半島の復旧、復興にはまだまだ時間がかかります。本学では、これまでの経験を生かしながら、被災地応援活動を継続していきたいと考えています。

ボランティアに参加した学生の声

実際に被害状況を自分の目で見ることで被災地が直面している困難を身に染みて感じた。

震災直後はみんなが関心を持っていても、次第に報道されなくなると現地の現状がわかりづらい。今回の活動でまだまだやらなければならないことが山積みだと分かった。

想像以上の被害に遭っていた。初めての稲刈りだったが、この災害で元の状態に戻すのに4～5年かかり、想像以上の損害に驚いた。

地震によって環境は変わってしまったが、それをきっかけととらえて、前向きに次に向かおうとしておられる方にお会いできた。その方々の思いを神戸で発信していくことが大切だと感じた。